

「第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等の状況(令和2年度)について」に対する環境審議会委員の意見と回答

該当箇所	意見	回答	
目指すべき方向に向かっていない指標等について	<p>目指すべき方向に向かっていない指標等については、まずは向かっていない理由を分析することが不可欠ではないか。</p> <p style="text-align: right;">【土井委員】</p>	<p>本計画における指標の意義は、その結果を踏まえて、本市の環境をより環境像に近づけていくためにはどういった施策を行えばよいかを見定めるための参考であると認識しています。</p> <p>このため、目指すべき方向に向かっていない指標等については、施策の実施状況の把握等を行うとともに、その改善策等についても検討・実施していくことが必要であると考えています。</p> <p style="text-align: right;">【環境局環境政策課】</p>	
第2次広島市環境基本計画に掲げる主な指標等の状況等一覧	<p>項目番号5 「林業従事者数」</p>	<p>「評価なし」の項目には類似指標または数値評価に変わるもの「関係団体への聞き取りした定性的な意見など」を記載できないか。</p> <p style="text-align: right;">【谷本委員】</p>	<p>令和4年5月頃に国勢調査が公表される予定であることから、令和4年度に令和2年度実績値を回答する予定です。</p> <p style="text-align: right;">【経済観光局農林水産部農林整備課】</p>
	<p>項目番号6 「森林ボランティアの活動者数」</p>	<p>コロナ禍が解消されれば参加したいと感じられるような啓蒙やPR活動を検討していただきたい。その方法の一つとして、広島市公式YouTubeチャンネルも活用して、過去や現在の活動の様子を発信してはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【中西委員】</p>	<p>現在、森林ボランティアの募集は、公共施設でのパンフレット及びチラシの配布や「ひろしま森づくりコミュニティネット」などを活用して行っています。</p> <p>コロナ禍が解消された後、多くの方に活動に参加したいと感じていただけるように、御提案いただいた効果的な広報方法について検討します。</p> <p style="text-align: right;">【経済観光局農林水産部農林整備課】</p>

該当箇所		意見	回答
第2次広島市環境基本計画に掲げる主な指標等の状況等一覧	項目番号7 「経営耕地面積」 項目番号9 「農業従事者数」	<p>目指すべき方向に向かうために、新規農業従事者へのインタビュー及びその分析を行って、阻害因と促進因を把握してはどうか。また、農業に従事することについて相応のメリットが周知されれば状況改善への一助になるのではないか。</p> <p style="text-align: right;">【土井委員】</p>	<p>新規農業従事者を増やすとともに農地利活用を促進する取組として、本市では“ひろしま活力農業”経営者育成事業等の研修事業に取り組んでいます。</p> <p>こうした研修事業を受講する方に対し、農業就農希望理由等を聞く中で、「子供のころの体験」や「食への関心」等が多くあったことから、これらが促進因として考えられます。</p> <p>一方で、一般的には、「技術の習得」、「資金」、「農地の確保」といったことが課題として挙げられていることから、これらが阻害因となっていると考えています。</p> <p>このことから、引き続き研修事業を行うとともに、食農教育等を通じて市民が農業に触れる機会の増加に努めることで、目指すべき方向に向かっていきたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【経済観光局農林水産部農政課】</p>
		<p>販売目的の新規就農者を増やすためには、所得が確保できるだけの1戸当たりの経営耕地面積や施設規模の確保が重要になるのではないか。</p> <p>都市近郊に農地が確保されていることは、食料の地産地消に欠かせない。地産地消はSDGsでうたわれている「エシカル消費」であり、子供の学校給食や食育のパートナーとしても期待できるのではないか。</p> <p style="text-align: right;">【村田委員】</p>	<p>専業による新規就農者を育成する事業として、平成9年から“ひろしま活力農業”経営者育成事業を実施し、これまでに39名が就農し、約51haの農地をあっせん・集積しています。</p> <p>今後も、こうした取組を継続します。</p> <p style="text-align: right;">【経済観光局農林水産部農政課】</p>

該当箇所		意見	回答
第2次広島市環境基本計画に掲げる主な指標等の状況等一覧	項目番号8 「耕作放棄地面積」	重要な指標だと思うので、今後何らかの方法で把握できないか。 【田中副会長】	「耕作放棄地面積」の代替として、農林水産省が行う「荒廃農地の発生・解消に関する調査」に基づいた「荒廃農地面積」を活用できるか検討します。 【経済観光局農林水産部農政課】
	項目番号11 「絶滅のおそれのあるもの」 項目番号12 「環境指標種」	「評価なし」の項目には類似指標または数値評価に変わるもの「関係団体への聞き取りした定性的な意見など」を記載できないか。 【谷本委員】	関係団体への聞き取り等により得られる意見は、特定の種に偏ったものとなることが想定されます。 このため、聞き取り等により「絶滅のおそれのあるもの」269種及び「環境指標種」49種について網羅的に評価することは適切でないと考えています。 【環境局環境政策課】【環境局環境保全課】
	項目番号22 「クリーンボランティア参加者数」	コロナ禍が解消されれば参加したいと感じられるような啓蒙やPR活動を検討していただきたい。 【中西委員】	コロナ禍が解消された後のPR活動として、引き続き本市ホームページや広報紙、市政出前講座などを活用し、支援事業の内容やボランティア清掃等の活動状況などを広く周知するとともに、SNS等（市公式フェイスブック等）により情報発信を行います。 【環境局業務部業務第一課】
		「評価なし」の項目には類似指標または数値評価に変わるもの「関係団体への聞き取りした定性的な意見など」を記載できないか。 【谷本委員】	関係団体への聞き取り等により得られる意見は、特定の種に偏ったものとなることが想定されます。 このため、聞き取り等により「絶滅のおそれのあるもの」269種及び「環境指標種」49種について網羅的に評価することは適切でないと考えています。 【環境局環境政策課】【環境局環境保全課】
		調査時期に関することを記載できないか。 【西嶋会長】	現時点で調査時期は未定ですが、今後調査について検討していく必要があると考えています。 【環境局環境政策課】【環境局環境保全課】
		コロナ禍が解消されれば参加したいと感じられるような啓蒙やPR活動を検討していただきたい。 【中西委員】	コロナ禍が解消された後のPR活動として、引き続き本市ホームページや広報紙、市政出前講座などを活用し、支援事業の内容やボランティア清掃等の活動状況などを広く周知するとともに、SNS等（市公式フェイスブック等）により情報発信を行います。 【環境局業務部業務第一課】

該当箇所		意見	回答
第2次広島市環境基本計画に掲げる主な指標等の状況等一覧	項目番号32 「光化学オキシダント」	実績値について目指すべき方向に向かっていないのか。 【大浜委員】	<p>本項目は、光化学オキシダントに関する環境基準達成率の増加を目指すべき方向として設定していますが、市内に設置した7局の一般環境大気測定局の全てにおいて環境基準を未達成の状況です。</p> <p>光化学オキシダントは、直接、工場や自動車から排出されるのではなく、光化学オキシダントの原因となる物質が反応して生成するため、原因物質が風によって移動する間に反応が進むことや、反応してできた光化学オキシダントそのものが風で運ばれるなどし、工場や交通量の少ない地域でも濃度が高くなるため、既存の排出削減対策では環境基準の達成は全国的にも厳しい状況です。</p> <p>なお、環境省において効果的な追加対策の検討が進められており、その対策を注視するとともに、引き続き、大気汚染物質排出量の調査等を行います。</p> <p style="text-align: right;">【環境局環境保全課】</p>
		実績値について、表中の要因等の説明からどのように読み取ればよいのか分かりにくい。 【内藤(佳)委員】	

該当箇所		意見	回答
第2次広島市環境基本計画に掲げる主な指標等の状況等一覧	項目番号37 「生活環境の保全に関する項目(海域のCOD)」	実績値について目指すべき方向に向かっていないのか。 【大浜委員】	<p>本項目は、海域のCODに関する環境基準達成率の増加を目指すべき方向として設定しており、海域における全窒素及び全りんは環境基準を達成していますが、CODは環境基準を未達成の状況です。</p> <p>瀬戸内海環境保全特別措置法及び水質汚濁防止法により、赤潮等による被害に対する富栄養化対策として、事業場の排水中のCOD、窒素及びりんにおける汚濁負荷量の総量規制などの総合的な対策が行われ、瀬戸内海の水質は以前と比べ改善されましたが、窒素、りんの改善に比べると、CODの改善は横ばいの状況です。</p> <p>この原因の一つとして、海域中に普遍的に発生する植物プランクトンや海底からの有機物の溶出などを起因とするCOD成分の海域内部での生成があり、事業場排水に係る対策の効果が表れにくい状況となっていますが、引き続き工場及び事業場の指導に取り組みます。</p> <p style="text-align: right;">【環境局環境保全課】</p>
		実績値について、表中の要因等の説明からどのように読み取ればよいのか分かりにくい。 【内藤(佳)委員】	